

2024 年結核登録者情報調査年報集計結果の発出について

日本結核・非結核性抗酸菌症学会会員の皆様、平素より本学会の運営にご協力いただきありがとうございます。

2024 年の結核登録者情報調査年報集計結果が厚生労働省より発出されました (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00016.html)。結核低蔓延状態が継続し、8.1 という罹患率を保ちましたが、残念ながらこの数値は昨年と同じ罹患率であり、実数では 10,051 人の患者が新規に登録されました (2023 年比 45 人減少)。しかし、他者への強い感染源となる肺結核塗抹陽性者は、3,352 名となり、2023 年比で 172 人減少しました。

私たち学会員は、今後、何を考えねばならないでしょうか。

本邦では外国出生者からの結核発病が増加しています。本邦の出生率低下により、海外から若い世代の方々に来ていただき、労働力を担っていただかねばなりません。本邦で学び働くこれらの方々に対して、適正に保健衛生上の取り組みを行う必要がございます。経済的先進国はすでにこの点に速やかに対処し、早くから活動性肺結核の有無を入国者の健康診断に取り入れ、未治療の結核患者の入国を防ぐようにしてきました。

本邦は COVID-19 パンデミックで中断された Japan Pre-Entry Tuberculosis Screening (JPETS) を 2025 年から再開しました。本邦において発病者が多い国から中長期滞在される方は、入国前に指定健診医療機関で胸部 X 線検査等を受け、結核を発病していないことを証明する資料の提出を求められます。現在本邦では、入国 5 年以内に発症する外国出生者の結核発病者が 58.9%と過半数を占めており、この制度により結核患者数の減少が期待されます。一方、潜在性結核感染症から発病に至る患者もおられると思われます。会員の先生方のご施設においても、外国出生者の結核発病を見落とさないようお願い申し上げます。

高齢者の既感染者からの発病対策も重要です。今回の報告において、新規登録結核患者数で最も割合が高かった 80 歳代の方々は、第二次世界大戦前後にお生まれになった世代で、日本の高度成長を支えてくださった方々です。日本がストレプトマイシンを導入したのは 1948 年 (米国進駐軍経由)、国内製薬会社が製造を開始したのは 1949 年です。現在供給が不安定となっているパラアミノサリチル酸は 1952 年、イソニアジドは 1952~53 年、エタンプトールは 1967 年、リファンピシンは 1971 年に日本で使用可能となりました。80 歳代の方々の幼年期は、多くの人々が結核で亡くなるだけでなく、入院治療や抗結核薬の導入も十分でない時代でした。その頃に感染し、年齢とともに免疫が低下し、現在、発病に至ったことが考えられます。

高齢者の結核は、活動性も低下し、合併症も多く、結核に投入すべき医療は高度化・複雑化します。結核の診療報酬改定のたびに、本学会は一般病棟と同様の基礎点数、さらに重症

者等療養環境特別加算、緩和ケア診療加算、呼吸ケアチーム加算の結核病棟での適応を求めてきました。結核病棟であるという理由で、なぜこのような差が生じるのか尋ねても、当局からは回答をいただいております。結核病棟入院治療は「感染防止のための隔離」目的ではありません。治療がより複雑になっている現状から、結核病棟での治療の質の維持が必須です。同時に結核入院施設を維持するために、医療機関からの持ち出しを減らさねばなりません。この問題については今後も問い続けていかねばならないと考えます。

本学会には現在、結核と非結核性抗酸菌症の2つの大きな柱があります。理事長として申し上げてきたように、「本学会では、柱となる結核および非結核性抗酸菌症とその周辺疾患に係る研究を含め、人材を集め学際的な研究を推進するために、従来にとらわれず合議によって対応していかなければならない」と常々考えております。よって、結核対策につきましても、今後は学会員だけでなく、公衆衛生、産業衛生、行政の現場、検疫に携わる先生方にもご参加いただければと思います。

各国の罹患率としては、2022 から 2023 年に米国、フランスで結核罹患率が上昇しました。また、日本が投資を行っているインドネシア、ミャンマー、フィリピンでも罹患率は上昇しています。本邦は「日本」という枠にとらわれず、世界を俯瞰的に見通す対応が望まれます。

理事長として感想を述べましたが、先生方からご要望がございましたら、高事務局長あてにご連絡いただけますと幸いです。執行部委員会で合議の上、協議させていただきます。

2025 年 8 月 31 日

日本結核・非結核性抗酸菌症学会 理事長

佐々木結花